

講演会

「アイヌ語」開講記念講演会（第2回）報告

国際日本学部 国際文化交流学科
廣瀬 富男

去る3月、神奈川県国際日本学部国際文化交流学科「アイヌ語」開講記念講演会の第2弾が行われ、アイヌ民族・文化の若手伝承者として活躍の関根摩耶さんを米田吉盛記念ホールにお迎えしました。講演タイトルは、「私のアイヌ〜平取町二風谷の育ちから〜」です。

講演は多岐にわたる内容でした。アイヌの工芸に始まり、料理、狩猟、ことば、ご出身地の二風谷^{にふた}、そしてご家族の話に至るまで、様々なエピソードが「ユカラ (yukar)」さながらに語られました。その壮大な「物語」の時間は、誰もが楽しめるアクティビティが至る所に散りばめられ、あっという間に過ぎていきます。お馴染みの「アルプス一万尺」の遊びをアイヌ語学習用の替え歌でやってみたり、アイヌ語に関するクイズに挑戦したり、「アイヌ語に色を表す語はいくつあるか?」「yay-ko-si-ram-suypa 「自分・で・自分(の)・心・(を) 揺らす(複数形)」という動詞はどういう意味か?」—みなさんなら、どう答えるでしょう?」

講演で特に印象に残っているのは、「消滅危機言語 (endangered language)」の話題の中で、関根さんが、ニュージールランドの「マオリ語 (Maori)」の復興を可能にした「テ・アタアランギ (Te Atarangi)」という言語習得法に触れ、「将来はアイヌ語のみで運営する保育園を作りたい」と述べられた点です。まだ20代半ばの彼女のこの言葉の中にアイヌ語復興の予兆がある—そういう思いを抱きました。

講演終了後は、「イタ (ita)」という一品物のアイヌ彫刻のお盆や、アイヌ紋様をあしらった小物の販売がありました。筆者は、司会を務めていましたが、聴衆に交じってテーブルの上の物の品定めをしつつ、最終的にハンカチとコースターを購入しました。今回の講演会のよい記念になると思います。

当日は、50余名の参加者を集める盛会となりました。講師の関根さんをはじめ、ご参加いただいた方々、また、開催に向けて様々な形で協力いただいた方々に、心より感謝を申し上げます。

さて、今回の講演を機に、アイヌについてもっと知りたくなったという方も多いと思います。そういう方、加えて、この記事を読んでアイヌに興味をお持ちになった方には、「アイヌ文化交流センター」という施設が台東区元浅草 (JR 御徒町から徒歩13分) にあるので、一度足を運んでみることをおすすめします。アイヌ関連の蔵書や映像資料が充実しており、日がな一日、アイヌ文化に浸れる場所となっています。

また、みなとみらいキャンパスでは、4月から「アイヌ語Ⅰ」(火曜日3時限) が開講され、5名の1年次生と1名の大学院生が、藤田護先生のご指導の下、楽しくアイヌの言葉・文化・社会について学んでいます (新カリキュラムにより、2〜4年次の学生、及び大学院生は、聴

講のみ可)。後学期の「アイヌ語Ⅱ」では、知里幸恵の『アイヌ神謡集』を中心に学習を進めていくことになっています。

『ゴールデンカムイ』のコミックや映画でアイヌに関心をもった新入生のみなさん、来年度以降、「アイヌ語Ⅰ・Ⅱ」を受講して、もっとアイヌの世界を体験してみませんか?

